

⑤ 冬の訪れ

○雲海と月山

45 移りゆく季節。

秋になると

庄内平野はすっぽりと

厚い雲に覆われ、

月山の山頂が見える日も

次第に少なくなって

きます。

○田麦俣

46 月山の麓に^{たむぎまた}田麦俣と

いう小さな集落が

あります。

ここには、

○多層民家

雪深い山村の歴史を

物語る^{たそうみんか}多層民家が、

大切に保存されています。

	<p>○旧分校</p>	<p>47 現在の^{たむぎまた}田麦俣は 22戸およそ100人が 暮らしています。</p> <p>48 秋の収穫が終わると 田麦俣の人々は 小学校の旧分校の校舎で 郷土芸能の田麦俣神楽を 楽しみ、1年の疲れを 癒します。</p>
	<p>○神楽</p>	<p>49 この神楽は、江戸時代、 田麦俣が山形と庄内を結ぶ ^{ろくじゅうりかいどう}六十里街道の宿場として、 ^{ゆどのさんもうで}湯殿山詣での人々で 賑わっていた頃に 伝えられたといわれて います。</p>

	<p>○月山紅葉</p> <p>○黒川</p> <p>○豆腐小屋</p> <p><small>けんもつせいいち</small> 剣持靖一さん</p>	<p>50 次第に深まりゆく秋。</p> <p>51 黒川では王祇祭の準備が始まっていました。</p> <p>52 上座の当屋を務める <small>けんもつ</small> 剣持さんの家では 豆腐を焼くための小屋が 作られていました。</p> <p>53 この現場に、 上座の囃子方で笛を務める 秋山さんの姿が ありました。 秋山さんの本業は 大工さんです。</p>
--	---	---

	<p>○休憩</p>	<p>54 次第に近づいてきた 王祇祭。</p> <p>いま釧持さんは どのような気持ちなので しょうか。</p>
	<p>○釧持さん</p>	<p>釧持「ここに生まれたからにはやっぱり 当屋頭人をつとめたいというような 気持ちで生活してきたわけですが、 も大人衆になった時には、はたして それまで生きられるかなと半信半疑 だったんですが、だんだん年の順で 順番が上がっていくもんですか、神 社の能舞台の正面に来た時にはもう 4年くらいになると正面に来るわけ ですから、これまで来たら、絶対や らなければだめだなというような、 そんな気力がでてきたような感じ です」</p>
	<p>○庄内柿</p>	<p>55 一方、 下座の小林さんのところでは <small>しょうないがき</small> 庄内柿の収穫に追われて いました。</p>

	<p>○小林さん</p>	<p>56 二月の王祇祭では、</p> <p>小林さんのお父さんが</p> <p>当屋頭人を務めるわけですが、</p> <p>過去に何回ぐらい</p> <p>当屋を務めたことがあるので</p> <p>しょうか。</p> <p>小林「江戸時代に2回で、明治になってから1回やってるから、全部で4回やっぱり、それだけ男の人が長生きしなかったというわけで、うちの父は宮ノ下から養子に来たんですけども、そのうちは毎代当屋をやっているんですよ、だから来る家は20年ごとに来る家もあるし、全然来ない家は全然来ないんですよ」</p>
	<p>○白鳥</p>	<p>57 小林さんは、</p> <p>柿の収穫を終えると</p> <p>休む間もなく</p> <p>今度は王祇祭の準備で</p> <p>忙しくなります。</p>

	<p>○クマタカ</p> <p>○松原さん</p> <p>○狩り</p> <p>○皮を剥ぐ</p>	<p>62 松原さんは</p> <p>夏に山岳ガイドや</p> <p>自然保護の仕事をしながら、</p> <p>今も、冬は野ウサギや</p> <p>テンなどを追って山に</p> <p>入っています。</p> <p>松原「イヌワシと比べるとかなり小ぶりに見えるんですけど、これでも翼を広げると1 m60 cmくらいありますね。獲物は主にウサギとかタヌキとかそういう四足で地上を走る動物なんですよ。ですから雪が沢山積もって藪とか見えなくなった時が狩りのいい時期なんです。ですから、冬場狩りをするわけなんですけども、山村の人たちが夏場農業や山仕事しながら生活し、冬場の生活手段としてタカを訓練して、クマタカを訓練して狩りをしたわけです。昔は毛皮が非常にいい値段で売れましたから、タヌキの襟巻とか、ウサギの耳当てとか帽子とか、非常に高価だったわけなんです。肉は自分たちの食料として食べて、毛皮は現金収入に結び付いたわけですね。」</p>
--	---	--

	○日本海	63 冬の日本海。 荒れた日々が続きます。
--	------	---------------------------------